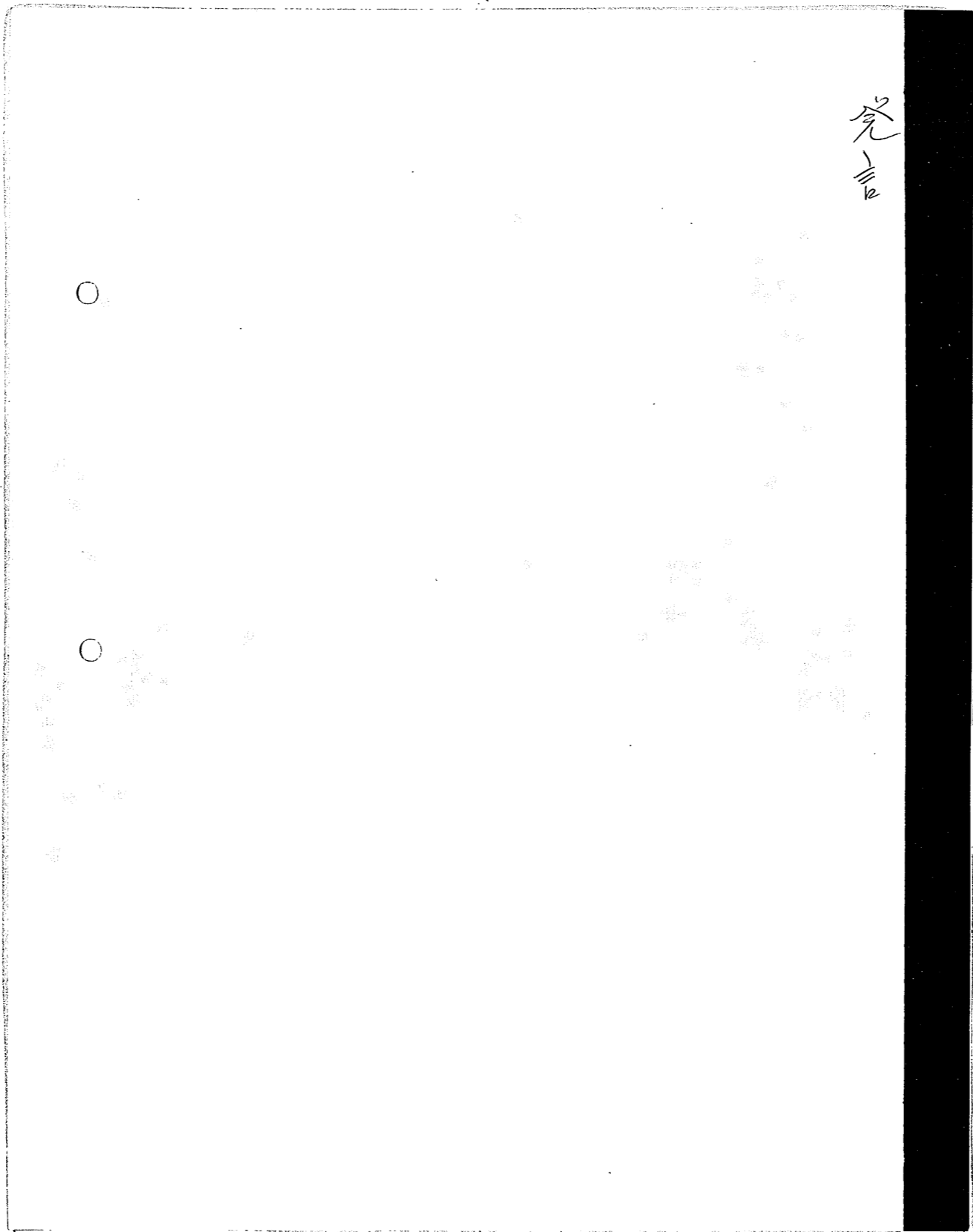


琉球大学学術リポジトリ

米国管理下の南西諸島状況雑件 日米協ギ (委)

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-12 キーワード (Ja): 日米協議委員会 キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43724



1/11/12

船舶種内政に関する外務大臣発言

4/21/65
米側との交渉

訳: 第9回の日米協議委員会以来懸案に在り、2回に及り、在沖船隻の旗の變更に關する日本側提案に、

米側も原則的に同意を以、更に具体的提案を行なふに對し、感謝の意を表した。然し

が、日章旗は日本國民に對して極めて重要なものなり。是れに他の旗標を加へて一旗

とし、在沖船隻の旗として之を慎重に検討を要するに在り。

國旗の尊嚴といふことは、米側にも十分理解されたと考へる。本日の米側

提案の旗章の一つを改め、日章旗と併せ在沖船隻の旗として之を提出するに在り。米側は、日章旗と併せ在沖船隻の旗として之を提出するに在り。

右の、日本側の意見は、之れと並行して、沖船

船隻に對する管轄権の問題を含み、沖船隻の旗に日本國旗を併せ掲揚するに在り。法律的問題の解決の可能性について、引き続き検討して、之を参考にするに在り。

(通訳)

★ 米側が一枚の布から成る種を提案しているという理由。もし、併用という点に存在し、現況外にある。他が日章旗の形を残し、他の部分を外に飛行を誘発を感じ、その結果、無用の困難が生じかそれ以外のことをおぼろげに示すことには反対。◎

秘
無期限

「船舶旗」について (新聞協賛会)
42.1.25

新、治津大佐が 別添1のステートメントが
存在し、米側3等の図柄が示された。これは、
~~米側3等の図柄が示された。~~

三木大佐が 別添2の発言があった。これは、
7日の三木大佐は、さらに説明がなされた。
~~三木大佐は、さらに説明がなされた。~~

7の旗とせず (併せ掲げること) という意味
である。大佐は「一つの旗に言及されたが、それ
には、ぬい合わせのもの一つの考えであることが、
それの一つの旗という考え方を示している。自分の心
配は、国旗の尊厳とウイングから、ぬい合わせに對する
反対があった場合、説明が難かしいという点
と述べた。
である。その米側の再検討を強く求めたい。
日章旗をかりげることについては、日本国民も
沖に對し、治津大佐は、案に申上げた。◎ 三木大佐が、
(ラフ) 外務省

沖波住民も希望して居る。ところが、もし、物
理的に、両方を一枚の布で出来たサインの中に
日章旗と日の旗を
入れなければならぬと厳格に解釈するときは、
その一つの旗として全く別の性格のものが出
てくるに付、日本側として日章旗を除く、
別の性格のものとしてウイングに對し、国旗の尊
嚴が問題になる。
沖波に對して、沖波住民不信のあらわ
れと言わなければならない。善意の人達だけが居る
わけではなく、やがてつけあがる人々も居る。沖波の
人から言えは、別の旗として一方を外に垂れかたし
たとしても、不信はウイングに對し、批判はこうとい
う立場の人からの批判である。
その、批判があることもおぼろげに示すに、米
外務省

例の善意を譲渡されたために、one set と
 一つの布が作れるが、しかし分らず 沖縄の標識
 をつけなければならぬと 判るがよい。
 其の 信託してあることが分る。その
 問題の解決が 生ずるが、それと 検討するが
 よい。そうであるが、国内の批判 するに 対応し
 たりし、沖縄で 事態は 解決できると 考へる。米
 例も 二つに 譲渡したのだから、まず 信託しよう
 ということになるが 得策である。わたくし one
 set であるが、日章旗を 入れた別のものを 作る
 ということになり、どうい 権利がある、どうい せ
 したかと言われたいに なる。と 述べた。
 二つに対し、どうい 方法は、米例として、
 日本例 提案が 日章旗と 他の部分とを 分離して

うきのこと 了解して いるから、どうい せと 答へた。
 相当な 困難があると思つて 答へた。
 二つに対し、さらに 大原則、第10回 の 協定書
 委員会、日本例 提案が 分離したもので あり、
 示した。「併せ かつ、どうい せと 答へた。二
 つの部分と 如何に 合わせようかと、one set
 と 考へたり、どうい せと 米例 政府を 説得
 されたいと 強く 希望したと 述べた。
 二つに対し、大原則、大原則、米例 解決は ワン
 トンに 報告する。現状では 自分、二つ 獲り
 たいと 厚則的に 合意 権限を 与えたいと
 述べ 答へた。どうい せと 答へた。新聞には
 今日 船旗の問題は 一切 出ないと言われ
 たいと 述べた。

二対し、大凡、理由は知らずか
 新聞は、今日横が議論されたことを知っている
 に対して、その、米側は「原則的に合意した」と
 言っているが心配しているものと考へるので、米側か
 ら沖縄船舶の変更に ついて 具体的な提議があり
 日本側が検討するようになったというにしてはど
 うかと平腹した。大凡、その、米側の提議
 は何であったか、日本側が受諾しなかったのは何
 故か、どういふに具体的な問題が出て来るとい難
 色を示した上、大凡、この問題が新聞に出
 たのが、い、と仰るごとの佐し。
 二対し、大凡、この問題がスミス
 に解決された見と利が、外に出たとい、ワ
 シントン、原則に解決の問題と、電報に、その、容

易に解決したとい、とて、外に出たのは、
 ましく、この問題と言ふか、し、日
 米関係に、要影響を及ぼすようではよくない、わ
 かく、ワシントンに十分説明すれば、解決する問
 題であると思ふ。と述べた。
 二、ワシントン大凡、米側で協定した
 の、暫時休憩したと提議し、大凡、二に同意を
 表明した上、内容を言ふというわけは、横の内
 題が議題となった、米側の見解が表明された
 こと、その、簡単に言ふとい、と述べた。
 二、米側は、新聞発表文章第3項の
 第1パラグラフは、その、第2パラグラフの、
 合意された（実際には、）等と同様に修正した
 案を提示したが、大凡、二、米側の見

解は何であったかと聞かぬ。一つの布から成る
 獲かたらしい。という事であったと説明せざるを得
 ない。 実際に発表された文章
 ない事に注意するの必要があり、結局、~~修正~~に
 修正された。その際、ジョージン大尉は、この事は
 バックグラウンド、フリーラング等は行なわれていない
 (これと並べ、日本側も同様した。)

28
Eleventh Meeting of U.S.-Japan Consultative Committee - January 25, 1967

STATEMENT BY AMBASSADOR JOHNSON

Minister Miki, Director General Tsukahara, Gentlemen:

At the 9th Meeting of the Consultative Committee on May 9, 1966, the Japanese side requested the U.S. side to consider the change of the design of the present Okinawan vessel flag to something which includes as part of its design the Japanese national flag. One example which was mentioned was a new Okinawan vessel flag which would consist of the Japanese national flag and a certain sign to indicate Okinawa on top of it. At the 10th Meeting on October 18, 1966, the Japanese side gave the U.S. side a paper showing several samples of the suggested flag design, and the U.S. side indicated that this question would continue to be studied. The U.S. Government has now authorized me, gentlemen, to hand you three designs which have been approved as proposals for a new Okinawan vessel flag. Each of these flags consists basically of a combination of the present modified Delta flag and the Japanese national flag. The first has the Japanese national flag with the Delta flag above it. The second has the Delta flag with the Japanese national flag between it and the flagstaff. The third is the Delta flag with a modified Japanese national flag embodied in a triangle at the flagstaff end of the flag.

In each case the combination has been made into a single flag, since the U.S., as a party to the Convention on the High Seas, understands that vessels are required to sail under one flag only.

29
Statement by Ambassador Johnson

Page 2

If the Japanese side will indicate which of these three designs is most desirable from its point of view, the U.S. will, in due course, take the necessary steps to establish that choice as the new Okinawan vessel flag. In view of the inclusion of the national flag of Japan in this design, the U.S. Government would expect that, should any question arise in third countries in regard to the new flag, the Japanese Government would join with the U.S. Government in explaining the applicability of this flag to Ryukyuan vessels.]

Eleventh Meeting of U.S.-Japan Consultative Committee - January 25, 1967

STATEMENT BY HIGH COMMISSIONER UNGER

Minister Miki, Minister Tsukahara, Gentlemen:

First, I look forward to Minister Tsukahara's visit to Okinawa and hope it can be soon. I particularly welcome the opportunity to attend this 11th meeting of the U.S.-Japan Consultative Committee. It gives me the chance to see at first hand the implementation of the cooperation between our two governments which is so vitally essential to continued progress in the Ryukyus and the enhancement of the welfare and well-being of the people of those islands.

My attendance here today, also gives me the chance to express to you my conviction, gained during my past three months as High Commissioner of the Ryukyu Islands, concerning the importance of the military base in the Ryukyus to the defense of the Free World in the Far East, including Japan, and of the absolute necessity for close cooperation between our two governments in making that base effective.

Some of the recent developments in the cooperative relationship between Japan and the United States concerning Okinawa which I am very happy to see include: progress in implementing the agreement whereby the Government of Japan will increase its exercise of responsibility with respect to Okinawan travelers abroad, including emigrants; and the marked increase in Japanese Government assistance to the Ryukyus. Such cooperation from the Japanese Government is most welcome.

Statement by High Commissioner Unger

Page 2

In this connection, I will continue to endeavor to take any and all appropriate actions that will raise the standard of living, including the public health, education and welfare sectors, of all the people of the Ryukyus to the level existing in comparable areas of Japan proper.

Finally, I assure you that the United States Civil Administration in the Ryukyus will continue to follow the policy of delegating authority to the Government of the Ryukyu Islands to expand and strengthen the powers of that government. As I am sure you know, I have already rescinded or amended certain items of U. S. Civil Administration legislation in line with that policy. Furthermore, I have presented the Chief Executive of the Government of the Ryukyu Islands with a list of 29 additional items of such legislation which I stand ready to rescind as soon as the Ryukyuan legislature enacts appropriate local legislation to replace them.

Thank you again for the privilege of attending this meeting today.

DRAFT

Eleventh Meeting of U.S.-Japan Consultative Committee - January 25, 1967

STATEMENT BY AMBASSADOR JOHNSON

Minister Miki, Minister Tsukahara, Gentlemen:

I fully agree with the sentiments expressed by you, Mr. Minister, on the work and importance of this Consultative Committee. I assure you that we approach its work in the same spirit. I most particularly welcome the opportunity for a full and frank exchange of views and for cooperation with the Government of Japan in promoting the welfare of the Okinawan people. This cooperation has already resulted in remarkable progress.

In discussing the question of Okinawa, the welfare of the people is one of the most important aspects to be considered. Additional aspects to be considered are the relations between the people of Okinawa and Japan, as well as the relations between the Okinawan people and the Government and people of the United States. Also, as you quite properly pointed out, Mr. Minister, we must think of the ability of the United States to carry out its security commitments to Japan as well as its general responsibility for the peace and security of the Far East. Thus, there are many factors that we will wish to consider in our discussions.

This Committee has done fine work in the past. We, the new members on this side of the table, hope that even greater progress and closer cooperation can be achieved in the future.

Thank you.

第11回日米協議委員会における

塚原総務長官挨拶

塚原長官:

昭和42年7月23日

私は昨年12月の内閣改造により総理府総務長官に就任しました塚原でございます。

就任早々国会解散、総選挙等の事情により、未だ沖縄を訪問する機会を得ませんが、総選挙後できるだけ早い機会に沖縄現地の事情を視察し、今後の沖縄問題に対処して参りたいと考えておりますので、何卒よろしく願います。

私は先づ、本日御出席いただいているアンガ高等弁務官が昨年11月沖縄に着任されて以来、琉球民裁判所制の改革、新たな民法による布告布令の廃止等の方針を打ち出され、琉球政府の自治権の拡充のために努力されていることに対し、日本政府はこれを高く評価し、今後の改革に非常な期待をよせていることを申し上げたいのであり

ます。

私は、この機会をかりて、一言申し上げたいと存じます。

日本を念ひ

申すまでもなく、沖縄は極東の安全保障上重要な役割を果している米国の軍事基地がおかれ、平和条約第三条によつて、戦後21年の今日まで米

国がその施政権を行使することとなつております。一方、94万の沖縄住民を含めた1億日本国民が沖縄の祖国復帰の悲願を今日までいできつづけてきていることもまた厳粛な事実であります。

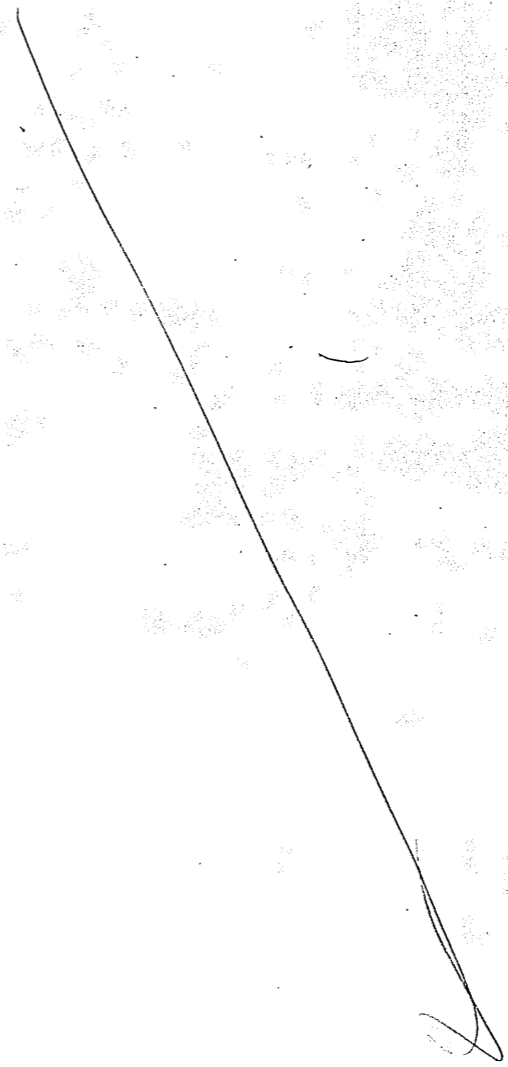
私は、米側が、彼等のこの沖縄の本土復帰の悲願について十分考慮されるよう要望するとともにこの日本国民の純粋な国民感情を理解されこれを今後の沖縄施政に反映していただきたいと思ひます。

沖縄諸問題の解決は、日米相互の真の理解と緊

密な協力なくしては期待することができないので
ありまして、これがためには、沖縄問題について
日米両国がお互いに卒直な意見の交換をしてゆく
ことが最も大切であると考えております。

何卒よろしくお願い致します。有難うございま
した。」

403



昭和42年度日本政府の対沖繩援助の日本側対案についての塚原総務長官説明

塚原長官

昭和42年1月23日

それでは昭和42年度日本政府の対沖繩援助の日本側対案について、説明いたしたいと存じます。

昨年10月18日に開催されました第10回日米協議委員会において米側より提案のありました1967日本会計年度(一部1968年度に支出されるものを含む。以下同じ。)における日本政府の対沖繩援助費の要請につきましては、その後日本政府部内において十分検討しました結果、本日日本政府の対案として提出する運びになつた次第であります。

今回の日本側提案によりますと、その総額は103億4831万5000円(2874万5319ドル)でありまして、米提案額とほぼ同額であります。その内容におきましても、特別な事情のあ

るものを除き、できるかぎり、米側提案の趣旨を尊重するよう努めておりますが、日本と沖繩の会計年度の相違している事情に鑑み、日本政府の予算としては1967、1968両年度に分けて計上することとしたのであります。

なお、詳細については後刻山野特連局長より補足説明をいたさせたいと存じます。どうぞ米側におかれても日本側提案の内容を十分ご検討いただき、私としてはできるだけ早い機会に1967日本会計年度の日本政府の対沖繩援助費について日米の最終的合意に達することを期待するものであります。

なお、私は明年度の日本政府の対沖繩援助が103億(2870万ドル)と画期的に増額されたことに関連して、米側におかれてもプライス法の現行沖繩援助の限度額を大巾に引き上げられるよ

う強く希望いたします。



~~米ノ国日米協議委員会における山野
総理府特使局長説明会~~

山野 総理府特別地域連絡局長

「それでは、私から1967日本会計年度日本政府
の対沖總援助費の日本側提案に関連して、
2,3
其の英訳につき簡単に御説明申し上げます。

先づ第一英は本日日米協議委員会に日本側
提案を提出するために十分な準備期間がなかった
ため、資料等につき下請の英がありますことを御
了承願いたいと存じます。これらの英については
後刻米側の求めに依り、必要な資料を整備して
十分な説明を致したいと存じます。

第二英は日本側提案のうち、項目

説明

相違については附属資料の母表の項に記載

してありますので、その概略を御理解されると存じ

ますので、私はここでは日本側提案で、対沖總援助

費が1967.68両日本会計年度の予算に計上

されることになっている英について説明しておき

たいと存じます。

日本側提案では、援助事業のうち建設事業関係
~~livelihood protection~~

生活保護費、教職員給与費等のごとく琉球政府に
finance

おいて毎月支出が行われるもの及び農林漁業部

通資金等についてはこれらごとの各援助事業の

金額を全部1967年度に計上することなく、その

一部は68年度予算に計上することとしております。

3

従って総額 10,348,315千円のうち67年度
 予算計上額は 8,242,452千円、68年度予算
 計上額は 2,105,863千円となっております。

この理由としては、日本政府の援助事業は
 琉球政府会計年度の67年7月から68年6月末
 までに実施する事業に援助するのでありますから、琉
 球政府において68年4月から6月末までの間に
 請負業者等に支払を行なうあるいは資金を貸与
 とするものについては日本政府の予算の建前から
 みれば68年度予算に計上することが合理的であり、
 一方琉球政府の側においても、日本政府の援助会

4

が68琉球政府会計年度中にあれば琉球政府の
 事業執行上何ら支障はないと考えられるからであ
 ります。

即ち、援助金額は67、68両年度に分割計上す
 る割合はおおむね次のとおりであります。建設事業関係
 は67年度70%、68年度30%であり、生活保護
 費、教職員給与費のほとんど毎月支出が行なわれるも
 のは67年7月から68年3月までの分は67年度
 予算、68年4月～6月までの分は68年度予算にそれぞれ
 計上してあります。また、農林漁業融通資金、
 中小企業融通資金は、資金^源が琉球政府、1968
 会計年度の半三回期までに全部集まることは考え

5.

られないので援助金額の^約25%~~共~~の金額を68年度

予算に計上することとしております。

Funds for Transit Fund Bureau

なお、資金運用部資金は制度発足間もなくであり

琉球政府内部の資金による資金運用計画も^あ存在するので

日本政府援助金は制度運営の状況を見ても支出すること

とし68年度に計上しております。

以上が日本政府の予算計上方法の概要でありま

すが、いまでもなく~~の措置による~~琉球政府の予

算計上にあたっては従来通り日本援助の総額並びに

各事業項目の金額の金額を計上することには^{1968年度琉球政府会計年度予算と}かゆ

りはありません。

6

以上 委員のつとを簡単に御説明いたしました。

であります。有難うございました。」



第11回日米協議委員会における

塚原総務長官挨拶

昭和42年1月25日

私は昨年12月の内閣改造により総理府総務長官に就任しました塚原でございます。

就任早々国会解散、総選挙等の事情により、未だ沖縄を訪問する機会を得ませんが、総選挙後できるだけ早い機会に沖縄現地の事情を視察し、今後の沖縄問題に対処して参りたいと考えておりますので、何卒よろしく願ひいたします。

私は先づ、本日御出席いただいているアンガー高等弁務官が昨年11月沖縄に着任されて以来、琉球民裁判所制の改革、新たな民法による布告布令の廃止等の方針を打ち出され、琉球政府の自治権の拡充のために努力されていることに対し、日本政府はこれを高く評価し、今後の改革に非常な期待をよせていることを申し上げたいのであり

総理府
第一室

ます。

私は、この機会をかりて、一言申し上げたいと存じます。

申すまでもなく、沖縄は極東の安全保障上重要な役割を果している米国の軍事基地がおかれ、平和条約第三条によつて、戦後21年の今日まで米^国がその施政権を行使することとなつております。

一方、94万の沖縄住民を含めた1億日本国民が沖縄の祖国復帰の悲願を今日までいできつづけてきていることもまた厳粛な事実であります。

私は、米側が、彼等のこの沖縄の本土復帰の悲願について十分考慮されるよう要望するとともにこの日本国民の純粋な国民感情を理解されこれを今後の沖縄施政に反映していただきたいと思ひます。

沖縄諸問題の解決は、日米相互の真の理解と緊

密な協力なくしては期待することができないので
ありまして、これがためには、沖縄問題について
日米両国がお互いに卒直な意見の交換をしてゆく
ことが最も大切であると考えております。

何卒よろしくお願い致します。有難うございま
した。

Remarks by Director-General Tsukahara
at the Eleventh Meeting of the Japan-U.S.
Consultative Committee on Okinawa

January 2⁵, 1967

I took office as Director-General of the Prime Minister's Office in the new Cabinet which was formed last December.

Although I have not had the opportunity to visit Okinawa because of the developments which immediately followed my appointment, such as the dissolution of the Diet and the general elections, I should like to make personal observations of the actual situations in Okinawa at an earliest possible opportunity after the general elections and to gain necessary enlightenment to handle properly problems pertaining to Okinawa in future.

High Commissioner Unger, who is with us today, has endeavored since he assumed his present post in Okinawa last November to expand the autonomy of the Government of the Ryukyu Islands through such measures as the expression of his intention to revise the appointment system of judges of the Government of the Ryukyu Islands courts and the replacement of certain ordinances by new legislation of the Government of the Ryukyu Islands. The Japanese Government holds his efforts in high esteem and looks forward to further progress to be made in future.

I

- 2 -

I should like to take this opportunity to give some of my thoughts on the Okinawan problem.

Needless to say, there are located in Okinawa the U.S. military bases which play an important rôle for the maintenance of security in the Far East including Japan proper and the U.S. is still exercising administrative rights in accordance with Article 3 of the Peace Treaty today, twenty-one years after the end of the war. On the other hand, however, it is an undeniable fact of life that throughout these years all the people of Japan including nine hundred and forty thousand residents of Okinawa have continued to entertain an ardent desire for the return of Okinawa to its homeland. I wish to request that the United States Government will pay full attention to this strong wish of the Japanese for the return of Okinawa to Japan. I also wish that the United States will understand this sincere national feeling of the Japanese people and reflect that understanding on its future administration in Okinawa.

It is not possible to anticipate any solution to the problems concerning Okinawa without genuine mutual understanding and close collaboration between our two countries.

I

I believe, therefore, that a frank exchange of views on the Okinawan problem between Japan and the United States is most important and strongly needed. I ask for your cooperation and understanding.

Thank you very much.

Eleventh Meeting of U.S.-Japan Consultative Committee -
January 25, 1967

STATEMENT BY HIGH COMMISSIONER UNGER

Minister Miki, Minister Tsukahara, Gentlemen:

First, I look forward to Minister Tsukahara's visit to Okinawa and hope it can be soon. I particularly welcome the opportunity to attend this 11th meeting of the U.S.-Japan Consultative Committee. It gives me the chance to see at first hand the implementation of the cooperation between our two governments which is so vitally essential to continued progress in the Ryukyus and the enhancement of the welfare and well-being of the people of those islands.

My attendance here today, also gives me the chance to express to you my conviction, gained during my past three months as High Commissioner of the Ryukyu Islands, concerning the importance of the military base in the Ryukyus to the defense of the Free World in the Far East, including Japan, and of the absolute necessity for close cooperation between our two governments in making that base effective.

Some of the recent developments in the cooperative relationship between Japan and the United States concerning Okinawa which I am very happy to see include: progress in

implementing

implementing the agreement whereby the Government of Japan will increase its exercise of responsibility with respect to Okinawan travelers abroad, including emigrants; and the marked increase in Japanese Government assistance to the Ryukyus. Such cooperation from the Japanese Government is most welcome. In this connection, I will continue to endeavor to take any and all appropriate actions that will raise the standard of living, including the public health, education and welfare sectors, of all the people of the Ryukyus to the level existing in comparable areas of Japan proper.

Finally, I assure you that the United States Civil Administration in the Ryukyus will continue to follow the policy of delegating authority to the Government of the Ryukyu Islands to expand and strengthen the powers of that government. As I am sure you know, I have already rescinded or amended certain items of U. S. Civil Administration legislation in line with that policy. Furthermore, I have presented the Chief Executive of the Government of the Ryukyu Islands with a list of 29 additional items of such legislation which I stand ready to rescind as soon as the Ryukyuan legislature enacts appropriate local legislation to replace them.

Thank you again for the privilege of attending this meeting today.

Eleventh Meeting of U.S.-Japan Consultative Committee -
January 25, 1967

STATEMENT BY AMBASSADOR JOHNSON

Minister Miki, Minister Tsukahara, Gentlemen:

I fully agree with the sentiments expressed by you, Mr. Minister, on the work and importance of this Consultative Committee. I assure you that we approach its work in the same spirit. I most particularly welcome the opportunity for a full and frank exchange of views and for cooperation with the Government of Japan in promoting the welfare of the Okinawan people. This cooperation has already resulted in remarkable progress.

In discussing the question of Okinawa, the welfare of the people is one of the most important aspects to be considered. Additional aspects to be considered are the relations between the people of Okinawa and Japan, as well as the relations between the Okinawan people and the Government and people of the United States. Also, as you quite properly pointed out, Mr. Minister, we must think of the ability of the United States to carry out its security commitments to Japan as well as its general responsibility for the peace

and

and security of the Far East. Thus, there are many factors that we will wish to consider in our discussions.

This Committee has done fine work in the past. We, the new members on this side of the table, hope that even greater progress and closer cooperation can be achieved in the future.

Thank you.

Remarks by Director-General Tsukahara at
the Eleventh Meeting of the Japan-U.S.
Consultative Committee on Okinawa

January 24, 1967

I took office as Director-General of the Prime Minister's Office in the new Cabinet which was formed last December.

Although I have not had the opportunity to visit Okinawa because of the developments which immediately followed my appointment, such as the dissolution of the Diet and the general election, I should like to make personal observations of the actual situations in Okinawa at an earliest possible opportunity after the general election and to handle the Okinawan problem in future.

High Commissioner Unger, who is with us today, has endeavored since he assumed his present post in Okinawa last November to expand the autonomy of the Government of the Ryukyu Islands through such measures as a revision to the appointment system of judges of the Government of the Ryukyu Islands courts or replacement of certain ordinances by new legislatives of the Government

of

中
原
稿

of the Ryukyu Islands. I should like to make it clear that the Japanese Government holds his efforts in high esteem and looks to further improvements.

I should like to take this opportunity to give some of my thoughts on the Okinawan problem.

Needless to say, there are located in Okinawa the U.S. military bases which play an important rôle for the maintenance of security in the Far East and the U.S. exercises administrative rights in accordance with Article 3 of the Peace Treaty even today, twenty-one years after the end of the war. It is also an undeniable fact of life that throughout these years all the people of Japan including nine hundred and forty thousand residents of Okinawa have continued to entertain an ardent desire for the return of Okinawa to its home. I wish to request that the Government of the United States will pay full attention to this strong wish for the return of Okinawa to Japan.

I also wish that the United States will understand this pure national feeling of the Japanese people and reflect that understanding on its future administration in Okinawa.

It is not possible to anticipate any ~~solu~~ solution to the problem

problem concerning Okinawa without genuine mutual understanding and close collaboration between our two countries. I believe, therefore, that a frank exchange of views on Okinawan problem between Japan and the United States is most important and strongly needed. I ask for your cooperation and understanding.

Thank you very much.

昭和42会計年度における日本政府の
対中経援助計画に関する日本側提案要旨

昭和42年1月 日

	昭和42年度計画	昭和43年度計画
I 総額	28,745,319 ^{千円}	58,498,119 ^{千円}
	10,348,315,000 ^円	21,058,630,000 ^円

II 内容

1 通常援助計画

	昭和42年度計画額	昭和43年度計画額
総額	25,826,402 ^{千円}	54,422,977 ^{千円}
	9,297,505,000 ^円	19,592,270,000 ^円

(1) 第1部門

農業、林業	4,031,797 ^{千円}	7,834,227 ^{千円}
及水産業	145,447,000 ^円	282,032,000 ^円

本部門は、耕地護岸、農道、農地開発、農山

総 理 府

漁村電気導入、家畜輸入、森林開発、漁港
施設、海岸無線局、農産物等流通対策、水産
資源調査、移住振興、農漁業融通資金及
臨時糖業振興助成費等の計画を含む。

(2) 第2部門

交通及土木	4,037,708 ^{千円}	633,230 ^{千円}
共土木業	145,357,000 ^円	227,963,000 ^円

本部門は、橋梁、港湾施設、気象台備品

施設、航路開設、公営住宅建設、治水

事業、先島テレビ局の竣工、先島・沖縄・本島間

電話施設の建設及び中小企業援助資金等の

計画を含む。

総 理 府

(3) 第3部門

労働福祉	4668636 ^{千円}	3985669 ^{千円}	482967 ^{千円}
及び厚生	1680709000 ^円	1434841000 ^円	245868000 ^円

本部門は、医療社会に於て医薬品、在琉球精神病患者及び本土結核患者医療費、無医地区診療所のための医療設備、保育所、医療保険及び退職年金計画、生活保護事業、老令福祉年金、児童福祉対策、原爆被爆者対策、清掃施設事業及びハンセン氏病対策等の計画を含む。

(4) 第4部門

教育及び文化	11575819 ^{千円}	9295080 ^{千円}	2280739 ^{千円}
	4167295000 ^円	3346229000 ^円	821066000 ^円

総 理 府

2 災害復旧特別援助

	昭和42年度計画	昭和43年度計画
総額	2918917 ^{千円}	407322 ^{千円}
	1050010000 ^円	146636000 ^円

昨年9月の台風被害に対する復旧援助資金の追加要請に対する援助計画である。

	総 額	昭和42年度	昭和43年度
1 一般住宅建設	1500000 ^{千円}	1125000 ^{千円}	375000 ^{千円}
2 農林漁業関係	540000000 ^円	405000000 ^円	135000000 ^円
3 中小企業資金	180000000 ^円	180000000 ^円	0
4 学校施設	250000 ^{千円}	250000 ^{千円}	0
5 護岸施設	90000000 ^円	90000000 ^円	0
6 港湾施設	340703 ^{千円}	340703 ^{千円}	0
7 公営住宅	122653000 ^円	122653000 ^円	0
	148470 ^{千円}	148470 ^{千円}	0
	53449000 ^円	53449000 ^円	0
	72000 ^{千円}	72000 ^{千円}	0
	25920000 ^円	25920000 ^円	0
	107744 ^{千円}	75422 ^{千円}	32322 ^{千円}
	38788000 ^円	1127152000 ^円	11636000 ^円

本部門は、教職員給与、公立学校建設、高校用
 備品、図書館用図書、育英奨学貸付金、琉球
 大学医学部、教育研修センター建設、子供の国建
 設及び学生文化センター建設等の計画を含む。

(5) 第5部門

技術援助	15,124,421 ^円	4,505,031 ^円	106,193,919 ^円
及びその他	544,479,000 ^円	16,218,100 ^円	382,293,000 ^円

本部門は、技術援助計画、司法庁舎建設、
 沖縄青少年会館建設及び運用部資金等の計
 画を含む。